

2017年11月14日

## 第22回「IR優良企業賞」発表

一般社団法人 日本IR協議会（会長・隅修三 東京海上ホールディングス株式会社 取締役会長）は、このほど2017年度IR優良企業賞受賞企業を決定いたしました。

「IR優良企業賞」（審査委員長・北川哲雄 青山学院大学大学院 国際マネジメント研究科教授）は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で22回目を迎えます。今年の実賞企業には、以下のような特徴があります。

- 経営トップが株主・投資家との対話を深め、それを経営に活かして企業価値向上に努めている。全社的にIRに積極的で、社外取締役や事業部門責任者も資本市場に対する理解が深い。こうした姿勢が情報開示のレベルアップを支え、投資家が理解しやすい経営指標やKPI（重要業績管理指標）の導入をもたらしている。
- 事業環境の変動に関わらず情報開示のレベルを維持・向上し、一貫した姿勢で投資家の信頼を得ている。IR部門へのアクセスやIR責任者・担当者のコミュニケーション力への評価も高く、IR Day や各種の説明会などの開催も活発である。外国人機関投資家、日本人機関投資家、個人投資家、アナリスト——など多様な対象に対するIR活動を実行し、フェアでタイムリーな情報開示に努めている。
- 非財務情報を企業価値向上とつなげて説明する工夫や、注目が高まるESG（環境、社会、ガバナンス）情報の開示に積極的である。ステークホルダーの視点を理解した上で、統合報告書の作成やその説明機会、非財務情報を活用した説明資料の充実などに取り組んでいる。

北川審査委員長は、「いわゆる2つのコードの理念を踏まえ、今回選ばれた企業は高いレベルの情報開示と対話を続けている。事業環境の変化があっても真摯に資本市場と向き合う姿勢は、経営の透明性を高めている。ESGなど非財務情報の活用についても、投資家の声を聞き、自社の特性を活かした工夫を続けている。奨励賞受賞企業も短い間でめざましいIRの進展を見せている」と語っています。

審査対象は、日本IR協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2017年の応募企業は284社となりました。受賞企業は下記の通りです。IR優良企業大賞2社、IR優良企業賞7社、IR優良企業特別賞3社、IR優良企業奨励賞2社の合計14社でした。受賞企業の主な選定理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

#### **I R優良企業大賞 受賞企業（社名 50 音順）**

株式会社小松製作所  
塩野義製薬株式会社

#### **I R優良企業賞 受賞企業（社名 50 音順）**

ダイキン工業株式会社  
大和ハウス工業株式会社  
ナブテスコ株式会社  
株式会社野村総合研究所  
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
株式会社丸井グループ  
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

#### **I R優良企業特別賞 受賞企業（社名 50 音順）**

麒麟ホールディングス株式会社  
ソニー株式会社  
不二製油グループ本社株式会社

#### **I R優良企業奨励賞 受賞企業（社名 50 音順）**

トラスコ中山株式会社  
株式会社リクルートホールディングス

#### **各賞の概要は下記の通りです**

##### **I R優良企業賞**

日本 I R協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定・表彰しています。

##### **I R優良企業大賞**

I R優良企業賞を直近 10 年以内に 2 回受賞し、3 回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から 2 年間は「I R優良企業賞」の対象から除外されます。

##### **I R優良企業特別賞**

I R優良企業賞に応募した企業のうち、継続的に I Rのレベルを高めている、業界のリーダーとして I Rに積極的である、個人投資家向け I Rの評価が高い——企業など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

##### **I R優良企業奨励賞**

I R優良企業賞に応募した企業のうち、新興市場・東証 2 部の上場企業、東証 1 部上場の場合には新規に株式を公開後 10 年目以内の企業、および I R優良企業賞に初めて応募する企業のうち中小型株企業を主な対象として表彰しています。2002 年より表彰をスタートさせました。

#### **審査方法は 3 段階で、下記のとおりです**

- ①応募企業が提出した「調査票」の結果をもとにした第1次審査（252社が第2次審査へ進出）
- ②審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員14名がIR優良企業賞審査対象企業211社、奨励賞審査対象企業41社を評価する第2次審査
- ③専門委員による第2次審査をもとに、学術経験者、弁護士等も加わった審査委員全員による最終（第3次）審査

**表彰式（「IRカンファレンス2017」のプログラムのひとつとして開催）**

2017年12月15日（金）午前11時30分から、ベルサール東京日本橋で開催する予定です。

**問い合わせ先：** 一般社団法人 日本IR協議会 事務局

TEL：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

**日本IR協議会とは：**1993年設立のIR普及を目的とする非営利団体。会員数は582（2017年10月1日現在）、主な活動はIRの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。

<https://www.jira.or.jp>

## 【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴

### I R優良企業大賞 受賞企業（社名 50 音順）

#### コマツ（小松製作所）

（2010年 I R 優良企業大賞、2016年・2013年・2008年・2007年 I R 優良企業賞）

長期にわたって一貫した情報開示を継続し、投資家との対話も深めている。経営層が交代してもその姿勢は変わらず、I R 担当者の知識や組織としての対応も十分である。経営トップをはじめとする経営層による対話や、工場見学会、部門別説明会などへの評価も高い。月次の建設機械の稼働状況データなどをウェブサイトで開示し、個人投資家向け I R も充実させるなどフェア・ディスクロージャーも意識している。近年注力している E S G 説明会は、持続的な成長への信頼性を高めると評価されている。

#### 塩野義製薬

（2016年・2015年 I R 優良企業賞、2014年 I R 優良企業特別賞）

経営トップは投資家との対話に積極的で、自社の競争優位性についての説明には説得力がある。厳しい環境でもハイレベルな情報開示を継続し、資本市場と対話を継続していることは投資家の信頼感につながっている。対話の成果をガバナンス改善に活かしたり、R & D (研究・開発) 部門の幹部などの意識改革や事業戦略に反映させていることへの評価も高い。I R 部門は継続してレベル向上に取り組んでおり、E S G に関する対話促進によって、社会的課題への取り組みと企業価値向上のつながりを示すことに尽力している。

### I R優良企業賞 受賞企業（社名 50 音順）

#### ダイキン工業（初受賞）

経営トップが投資家と対話し、首尾一貫した姿勢で事業環境や中長期の課題などについて説明している。I R 部門は投資家が望むことを把握して説明資料などに反映し、アニュアルレポートも毎年テーマを変えるなど工夫している。ウェブサイトを通じた情報発信や工場見学会などのイベント開催にも積極的。個人投資家向け I R 活動も活発化させている。高い D O E 目標を掲げるなどの資本政策も設定し、資本市場の理解を促している。

#### 大和ハウス工業（初受賞）

近年、I R 活動を強化し、その姿勢や情報開示、経営へのフィードバック、事業説明会などのイベントなどが業界の中でもトップクラスという。数値による開示が詳細かつわかりやすく、事業分野別スモールミーティングでも有益なディスカッションができる。初めて作成した統合報告書では企業価値向上のプロセスを明確に説明し、また同書を用いたミーティングを開催することで、対話と理解を深めるツールとして高く評価された。

#### ナブテスコ

（2012年 I R 優良企業特別賞）

事業環境の変動が大きい中、安定して I R レベルを維持・向上している。経営トップを中心に I R 活動を積極化しており、フェアで簡潔な説明がぶれないとの評価がある。統合報告書はガバナ

ンスや会計基準、報酬制度について長期にわたって説明し、理解を促している。E S Gについてはミーティングなどを通じ投資家と対話を深めている。ウェブサイトには個人投資家向け専用サイトを設け、イラストなどを多用しわかりやすく説明している。

### **野村総合研究所**（初受賞）

一般的に把握しにくいとされる業態にあつて、継続的に情報開示を維持・向上させている。経営トップが積極的に投資家と対話し、率直に意見交換する姿勢への評価も高い。I R部門は経営陣の考え方や事業内容などを投資家に理解してもらおうと努力し、丁寧に説明を続けている。アクセスのしやすさや長年の経験の蓄積などで、I R部門の現場への信頼感も高い。説明資料も充実しており、事業ごとの説明会などのイベントも評価されている。

### **ポーラ・オルビスホールディングス**

（2015年I R優良企業賞）

経営トップがI R活動に深く関与して開示レベルを高く引き上げ、資本市場の声を経営に活かす姿勢が明確である。経営トップは外国人投資家に加えて国内投資家とも対話を続け、I R部門は個人投資家向けイベントも活発化させている。経営企画・財務部門などのサポートでI R部門に必要な情報が集約され、情報開示の精度に対する高い評価を得ている。ブランド別の業績数値を掲載したファクトブックなどのI Rツールへの評価も高い。

### **丸井グループ**

（2016年I R優良企業特別賞）

近年、I Rを積極化し、経営トップを中心に活動を充実させている。3年連続して発行した統合報告書でも、コーポレートストーリーを明確に打ち出し、投資家の声を活かしたK P Iを活用して企業価値向上への道筋を示している。投資家などと企業価値を「共創」という姿勢でI R活動を実行し、説明会やその資料に対する評価も高い。E S G推進にも率先して取り組み、事業に加えてE S G関連・統合報告書に関する説明会も開催している。

### **三菱UF Jフィナンシャル・グループ**（初受賞）

経営トップのI R姿勢が積極的で、投資家と対話する機会も多い。事業内容が多岐にわたり複雑な組織構造になっている中で、I R部門は正しく理解してもらうための活動に取り組んでいる。部門ヘッドや筆頭独立社外取締役が登壇し質疑応答なども行うInvestors Dayの開催、経営トップとのスモールミーティング、事業別の説明会など工夫をこらしたイベントへの評価も高い。本編と資料編の2部構成の統合報告書も充実している。

## **I R優良企業特別賞 受賞企業（社名 50音順）**

### **キリンホールディングス**

（2009年I R優良企業大賞、2000年・1999年I R優良企業賞、2006年I R優良企業特別賞）

経営トップが積極的に投資家と対話の機会を設け、経営改革や企業価値向上の道筋を示している。マネジメントの説明は説得力があり、厳しい事業環境の中でも投資家が求める情報を発信している。非財務情報を活用したI R活動も進めており、時系列、網羅的、かつコンパクトにまとめら

れた「コーポレートガバナンスの変遷」などのIRツールも評価されている。従来からIR活動の水準は高かったが、近年改めて評価が高まっている。

## ソニー

(1996年IR優良企業賞)

経営トップやCFOは、株主、投資家の意見を経営に活かして企業価値を向上させようとする姿勢が明確である。IR部門も投資家の疑問に対して真摯に向き合い、丁寧に説明して可能な限り解決しようと努めている。説明においても、市場のニーズや懸念材料の把握に努め、キャッシュフローを重視した開示を強化するなど資料に適宜反映するスピード感がある。経営層の資本市場に向けてのコミットメントも強く、投資家との対話機会も多い。

## 不二製油グループ本社 (初受賞)

ここ数年のIRの進展が目覚ましい。経営トップを中心にマネジメント層が一体となってIR強化に取り組んでいる。社内取締役だけでなく社外取締役もIRミーティングに参加するなど、株式市場と積極的に対話する姿勢を強めている。IR部門は技術説明会や施設見学会などのイベントを通じ、投資家とのコミュニケーション機会を拡大しビジネスモデルの理解を促している。投資家の視点を取り入れた中期経営計画の発表などにも取り組んでいる。

### IR優良企業奨励賞 受賞企業 (社名50音順)

#### トラスコ中山 (初受賞)

経営トップのオープンな姿勢が高い評価を得ている。トップの姿勢が開示レベルに反映され、中短期業績予想などの投資家に有用な情報を積極的に発信しているほか、決算説明資料は日英で公表。決算説明会資料を同日にウェブサイトに掲載するなど早期、公平な情報開示に努めている。社会貢献や女性活躍などのESG情報を重視し、内容も詳細。説明におけるIR担当者の理解力も深い。個人投資家向け活動も充実させている。

#### リクルートホールディングス (初受賞)

2014年上場以降、高水準のIR活動を展開していることが評価された。IR部門は説明会資料をはじめとした詳細な資料による情報開示と丁寧な対応に努めている。投資家の視点を取り入れた経営指標を導入するなど、資本市場からのフィードバックにも積極的で、情報開示のレベルも高い。定期的な決算説明に加えて、投資家の関心が高い事業に関する説明機会を充実させていることも評価された。個人投資家向けの対話機会も拡大している。

以上